

# 浪江町からの報告



2026年5月30日  
浪江町 市街地整備課

# 1. 共創会議の1年間の歩み

<2026年3月現在の会員数:69者(企業、個人、団体)>

開催日	主な内容・テーマ	会場	参加団体数	参加者数
2025年 5月29日(木)	キックオフ会議 共創会議のキックオフ、浪江駅西側地区の実現に向けた対話のスタート	秋桜アリーナ	79	162
7月17日(木)	コミュニティ部会① 多様な活動・事業アイデアの共有と交流	會澤高圧コンクリート 福島RDMセンター	61	99
7月23日(水) ～8月22日(金)	基盤整備部会に向けた個別サウンディング 基盤整備・公募条件等に関する民間事業者 ヒアリング	浪江町役場、WEB	5	—
10月15日(水)	基盤整備部会① 土地利用・空間形成等の検討	道の駅なみえ	30	45
11月5日(水)	コミュニティ部会② ワーキンググループ形成・具体的な活動テーマの深掘り	浪江町防災交流センター	51	101
2026年 2月18日(水)	コミュニティ部会③ 「浪江らしさ」や未来の風景を考えるまちづくりワーキンググループ	浪江町防災交流センター	56	106

## 2. 今年度の計画

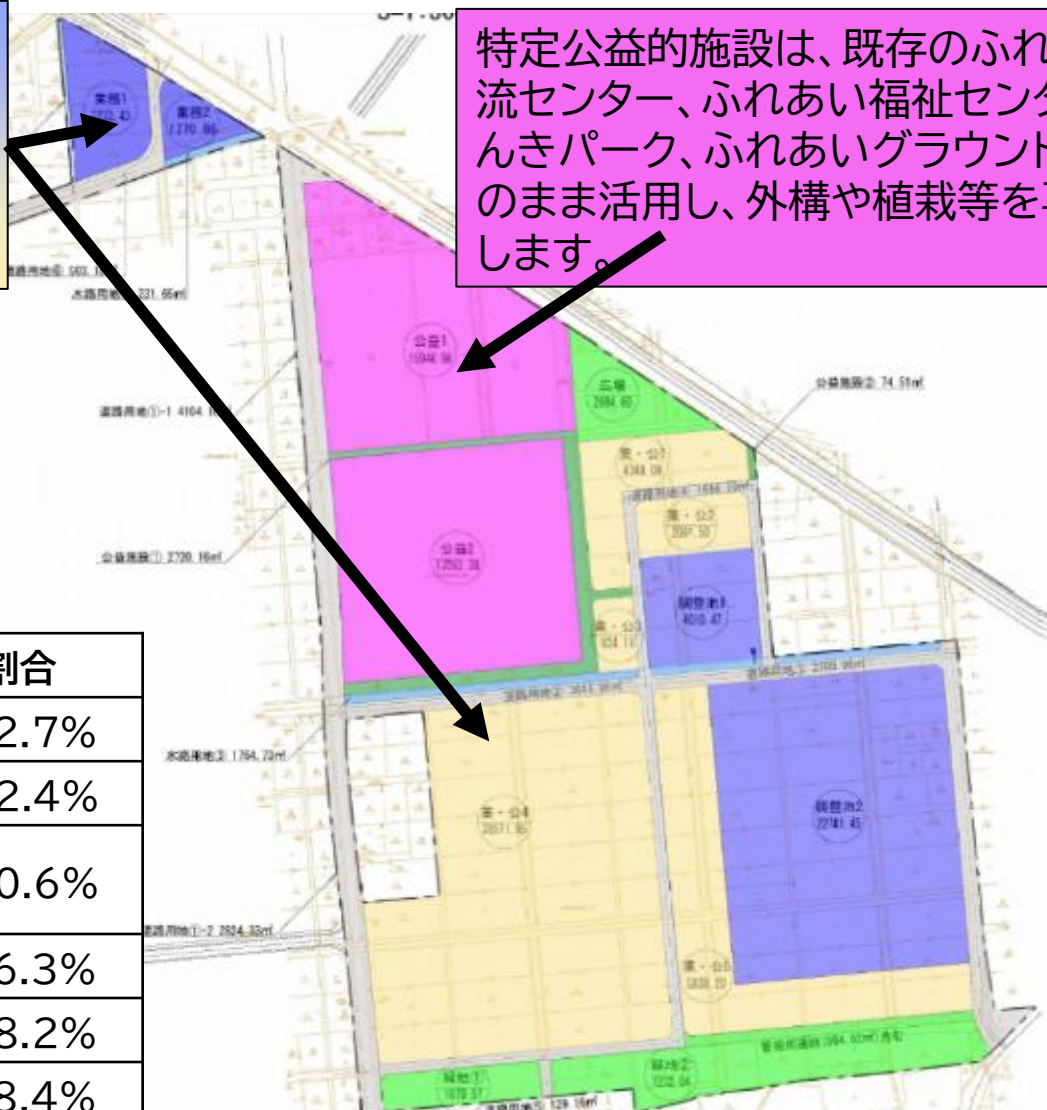
区分	4月	5～6月	7～9月	10～12月	1～3月	R9年5月
共創会議 (全体)	説明会 現地視察 会(新規参 加者向け)	浪江駅 西側地区 共創会議 (第2回)	先進事例視察会(随時開催) 候補①居心地の良い施設の事例 (三春町、須賀川市、国見町他) 候補②エリアマネジメント先進事例 (岩手県大船渡市他)			浪江駅西 側地区共 創会議(第 3回)
コミュニ ティ部会			部会④		部会⑤	
ワーキ ンググ ループ	  					
基盤整備 部会			部会(随時開催) 個別サウンディング(随時開催)			

# 3. タウンセンター西街区の土地利用計画

特定業務施設、特定業務施設・特定公益施設は、生活の利便性向上や楽しみ暮らせる余暇の充実に資する様々なサービスを提供する店舗、事務所などの民間施設を誘致します。

特定公益的施設は、既存のふれあい交流センター、ふれあい福祉センター、げんきパーク、ふれあいグラウンドをそのまま活用し、外構や植栽等を再整備します。

国県関係者等と調整中のため、確定したものでなく、現時点での想定です。



区分	面積	割合
特定業務施設	0.4ha	2.7%
特定公益的施設	3.3ha	22.4%
特定業務施設 ・特定公益的施設	4.5ha	30.6%
道路	2.4ha	16.3%
広場・緑地	1.2ha	8.2%
調整池	2.7ha	18.4%
水路	0.2ha	1.4%
合計	14.7ha	100.0%

その他、まちの運営、維持に必要な道路、水路、調整池、緑地等を整備します。

# 4. タウンセンター西街区の工程案

年度		R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13~
タウンセンター西街区	町	基盤整備	都市計画・事業認可手続き					
			基本設計	実施設計				
				用地取得				
			工事					
	共創会議	民間事業具体化			民間事業具体化			
	事業者公募	条件すり合わせ			公募	公募	公募	
民	施設整備				設計・建築			
	施設運営					運営		

※現時点の想定スケジュールであり、国県関係者等との協議状況に応じて見直しが生じる可能性があります。

# 5. 関連事業・計画の工程

年度		R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13~
浪江駅西側地区	町	基盤整備	各種手続き	用地取得				
			基本設計	工事等				
		共創会議	民間事業具体化		民間事業具体化			
	事業者公募	条件すり合わせ	公募	公募	公募			
	民	施設整備	設計・建築					
施設運営		運営						
浪江駅周辺整備事業	基盤整備	工事					工事	
	東西自由通路・駅舎	基本設計	実施設計	工事				
	交流施設	実施設計	工事					
	商業施設	実施設計	工事					
	公営住宅	実施設計	工事					
	地域活性化施設	実施設計	工事					
F R E I	施設整備	設計・工事						
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">                     令和12年3月 供用開始予定                 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin-top: 10px;">                     本部施設棟については、 R10年度完成を目指す                 </div>						

【Confidential】

# 浪江駅西側地区共創会議と拡張地域社会

※所謂「メタバース」の推進はやっていません。



# 団体概要

団体名	一般社団法人 メタバース推進協議会
所在地	〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町3番33号
設立年月	2022年(令和4年) 3月31日
連絡先	E-mail: jimpu@jmpc.jp (事務局)
代表理事	<b>養老孟司</b> (東京大学名誉教授)
常任理事	溝畑宏 (大阪観光局 理事長、元 観光庁長官、総務省(自治省)官僚)
理事	湯澤由紀夫 (藤田医科大学 学長)
特別顧問	隈研吾 (東京大学特別・名誉教授、隈研吾建築都市設計事務所)
	廣瀬通孝 (東京大学名誉教授)
	川森雅仁 (慶應義塾大学 大学院 政策・メディア研究科 特任教授)
監事	杉村光嗣 (杉村萬国特許法律事務所 代表弁護士)
	増田雅史 (森・濱田松本法律事務所 パートナー弁護士)
事務局長	長田忠千代 (元 三菱UFJ銀行代表取締役専務)
	小水陽介



**参画企業 一部のみ記載**

## 当協議会の特性と目指すもの

- ◆ “人間本来の暮らし方”日本人の生活文化の醸成、継承など、生活者主体の視点を持ち、人間本来の暮らし方を再現する未来社会を探索する。

現実社会での  
複雑に絡み合った  
社会課題

日本人の持つ  
自然観、倫理観、  
美意識

人間本来の暮らし方  
人々が望む平穏で  
“普通”の生活や営み

新たな社会インフラ

生活者主体

# メタバースとAIは人の暮らしに何をもたらすのか（2024年1月26日）



NHKおはようっぽん※24年1月26日放映

参加したのは

▽脳科学者の養老孟司さんと

▽VR=バーチャルリアリティーに詳しい東京大学名誉教授の廣瀬通孝さん、  
そして、

▽国内のAI研究の第一人者と言われる東京大学教授の松尾豊さん  
の3人です。

## 養老さん

「最近思うのはみんな面倒な人間よりも機械を使う方がいいと思って優秀な人はみんなAIの方に行くが、70億以上ある人間の脳みそを放っておいていいのではないかと  
思う。本当にAIやメタバースと生きる社会とはどういう社会なのかを自分の頭で考  
えなければいけない。みなさんどれくらい脳を使っていますか。人間にももっと目を向  
けてまずは自分の頭から整理してほしいという気がします」

# 2024年度：①地域コミュニティの形成

◆ 2024年12月6日福島県自治体説明会を開催(自治体関係者・企業・福島大学学生含め現地41名が参加)  
 主催：当協議会、後援：福島県、復興庁、協力：株式会社NTTデータ、福島大学

QRコード

メタバース推進協議会企画  
 「拡張地域社会ふくしま」(仮称)体験・説明会

※参加無料  
**12/6(金)15:00~17:00**  
 <現地参加>30名限定 <オンライン>定員なし  
 申込URL: <https://forms.gle/pVpX6aLcrhuF1NiF6> ※オンライン配信実施

国立大学法人福島大学  
 行政政策学類棟2F大会議室  
 (福島県福島市金谷川1番地)

主催- メタバース推進協議会 -共催- 福島大学 地域未来デザインセンター  
 -協力- NTT DATA -後援- 復興庁・福島県

1. コンセプト紹介・説明(15:00~15:45)

少子高齢化、大都市への人口一極集中、地域の過疎、農林水産業の衰退などは現在の日本が抱える喫緊の課題です。東日本大震災・原子力災害により福島県は上記の課題がより顕著な状況です。そのような課題先進地域である福島で、次世代の社会基盤となる拡張地域社会「田園都市メタバース構想」(仮称)に先進的に取り組むことで、各自治体と福島県の創造的復興および持続発展を回すことを目的としています。

拡張地域社会「田園都市メタバース構想」(仮称)

未来への希望  
 魅力の体験  
 自然との共生

2. 体験会(16:00~17:00) [対面のみ]  
 拡張地域社会を実現する各要素の兆し事例を実際に体感することで、創造的復興を先進技術で加速させるための議論を促進することを目的としています。

<未来を現実につなぐ>  
 ・大学生がITとアートのかの可能性を拓く、新たな挑戦  
 ・メタバースから現実世界を変える  
 ・活気に満ちた未来への希望を

<消費者を生産者につなぐ>  
 ・自然に囲まれ、かわいさを体感する  
 ・ウェアラブルデバイスで体験  
 ・里山産業に新たな付加価値を創出  
 ・都市と農村を繋ぎ自然共生社会へ

<伝統を後世につなぐ>  
 ・守るべき無形文化や整理感を、時空を超えて後世に伝承  
 ・伝わりにくい動きもリアルに再現  
 ・デジタル化した表現で魅力を体感

はちまメタ  
 ヘルスクエア 共創ラボ  
 NTT DATA

内閣総理大臣  
 石破 茂 殿

実施日:令和6年12月6日

申請者住所  
 東京都千代田区紀尾井町3-33  
 プリンス通りビル2階  
 氏名 代表理事 養老孟司

「拡張地域社会ふくしま」(仮称)  
 体験・説明会

【拡張地域社会ふくしま体験・説明会】に対する  
 復興庁後援名義使用の結果報告について

復本第2310号令和6年11月13日付けで後援の承認を頂きました  
 「拡張地域社会ふくしま体験・説明会」について、終了しましたので、下記の通り  
 結果を報告します。

(添付書類)  
 1 結果報告、収支決算報告書(本書)  
 2 説明会資料  
 3 参加者リスト

一般社団法人メタバース推進協議会





## 人間本来の暮らし方の探求

～最先端のデジタル技術と生きる社会とはなにか～



2025年9月28日～10月13日展示

### <代表構成員>

- ・一般社団法人メタバース推進協議会

### <展示コンテンツ(協力自治体)>

- ・浪江町
- ・喜多方市
- ・田村市
- ・葛尾村
- ・福島大学地域未来デザインセンター

### <技術協力>

- ・東京大学
- ・株式会社NTTデータ

# 2025年度 知能と知性が響き合う ふたりの自分～(2025年大阪・関西万博)

2025年10月8日：NHKおはようっほんにて放映



## 【企画趣旨】

AI養老先生”誕生記念スペシャル対談として、  
当協議会の養老代表が、自らの分身である“AI養老先生”と  
対話するこれまでにない、象徴的な試みです。

知能だけが肥大化していく社会に、  
私たちが見失ってはいけないことはないか？  
世界的にAI信仰が加速し、「知能」ばかりが目される現代。  
あえて、デジタルの功と罪を問うことに、  
この対話の意義があると考えています。

養老代表がかねてより警鐘を鳴らしてきたテーマ  
—大震災への備え、東京一極集中と地方の再興—  
などを取り上げ、「人間本来の暮らし方」を問い直します。  
デジタル技術の進化に目を奪われがちな現代において、  
このテーマは極めて象徴的な意味をもつと考えています。

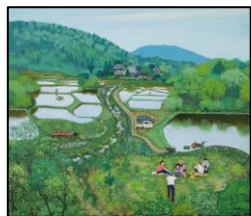
私たちはこの対話を、AI社会の未来をただ語るのではなく、  
自らの頭で考える契機、そして人間の本質へ立ち返る思索の場  
として位置づけています。

# 「脳化社会」「メタバース」

- ◆ 養老孟司代表は、現代の都市を「人間の頭が考えたことを現実に反映した社会」と捉えた。
- ◆ 頭でっかちになった社会で、身体性や自然との接点を失っている社会への批判的に表す概念。
- ◆ 都市が脳化社会の物理的場所であるなら、メタバース(概念)はその究極形、デジタル上の場所。

半世紀前まで

持続可能な社会



自然・里山

自然環境・生活文化・  
コミュニティが調和した  
地域社会の暮らし方

人の身体と頭が調和した  
人間本来の暮らし方

現代社会

脳化社会



工業・都市

都市は人間の頭が  
考えたことそのもの

便利で秩序立っているが、  
身体性や自然との接点が  
置き去りにされている

未来社会

メタバース(概念)?

頭で考えたことは  
デジタル上で  
良いのでは?

# 「現代版参勤交代」と「ふるさと住民登録制度」

- ◆ 「ふるさと住民」とは、住所地以外の地域と継続的につながることを公的に認める制度、来年度開始予定。
- ◆ 養老孟司代表が主張してきた「現代版参勤交代」、つまり大都市住民が地方や自然の中へ移動して身体性や自然との接点を取り戻すこと、とも親和性が高い政策。浜通りでは飯舘村が先行実施自治体に採択。

**「ふるさと住民」制度創設へ 10年で1千万人登録目標**

6/3(火) 19:00 配信 1642

**KYODO**

政府は3日、地方創生に関する有識者会議を首相官邸で開き、今後10年の指針となる基本構想案を示した。仕事や趣味などで継続的に居住地以外の地域に関わる「関係人口」を増やすため、自治体がこうした人を「ふるさと住民」として登録する制度を創設、10年で1千万人を目標とする。東京圏から地方へ転入する若者の比率を倍増させ、人口の偏在解消を進める。

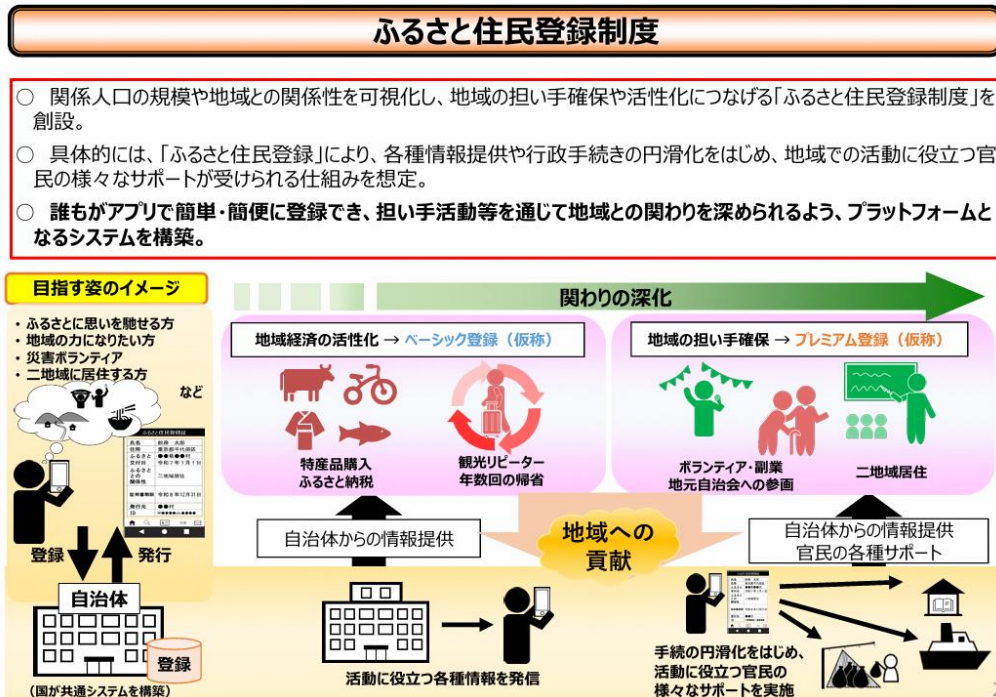
【表】地方創生に数値目標、主な項目 関係人口や若者転入

与党と調整し、今月中旬にも決定。実行に向けた戦略を25年中に策定する。

石破茂首相は会議で「若者、女性に選ばれる地方の実現へ意識改革を着実にしていくことに加え、農林水産業のスマート化や中小企業の生産性向上など『稼げる地方』をつくる」と強調した。

構想案は「人口規模が縮小しても経済成長し、社会を機能させる適応策を講じる」と強調。「10年後に目指す姿」として数値目標を設定した。

ふるさと住民は、観光のリピーターやふるさと納税の寄付者らがスマートフォンアプリを通じて申請、自治体が登録証を発行する仕組みを想定している。



出展： <https://news.yahoo.co.jp/articles/3fd1775c7ee7687f44f3314b56b2bcec121d5cf8>

出展： [https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/digital\\_gyozaikaikaku/kyotsu13/furusato\\_shiryou.pdf](https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/digital_gyozaikaikaku/kyotsu13/furusato_shiryou.pdf)

Copyright 一般社団法人メタバース推進協議会 <confidential>.

## 当協議会の推進する拡張地域社会とは

- ◆ 日本全体が抱える人口減少・高齢化・地方の過疎といった構造課題に対し、**大都市と地方の関係性をリデザイン**し、大都市・地方の区分けによらない“拡張地域社会”環境構築を目指す。
- ◆ **所謂ホワイトカラー労働を中心にリモート化・AI化を推進**することで、都市居住か地方居住かという選択ではなく、**多拠点居住型のライフスタイル**を探索する。

### 【拡張地域社会とは】都市でも地方でもない第三の社会

XRやAIなどの先進技術を活用することで、地理的制約に依存せず経済活動や社会活動を可能とする。都市に居住しながらも地方社会に参画でき、多拠点居住スタイルも選択できる、新しい社会デザイン構想

### 【拡張地域社会の狙い】多拠点居住型を前提とした新たな産業創出

- ◆ 動機：社会課題に取り組みたい、熱量を持った人に出会いたい、手軽に起業したい
- ◆ 手段：時間/場所の制約を低減するデジタル技術活用(AI、アバター、XR等)
- ◆ 波及効果：全国の自治体の関係人口を“人と人とのつながり”から創出する



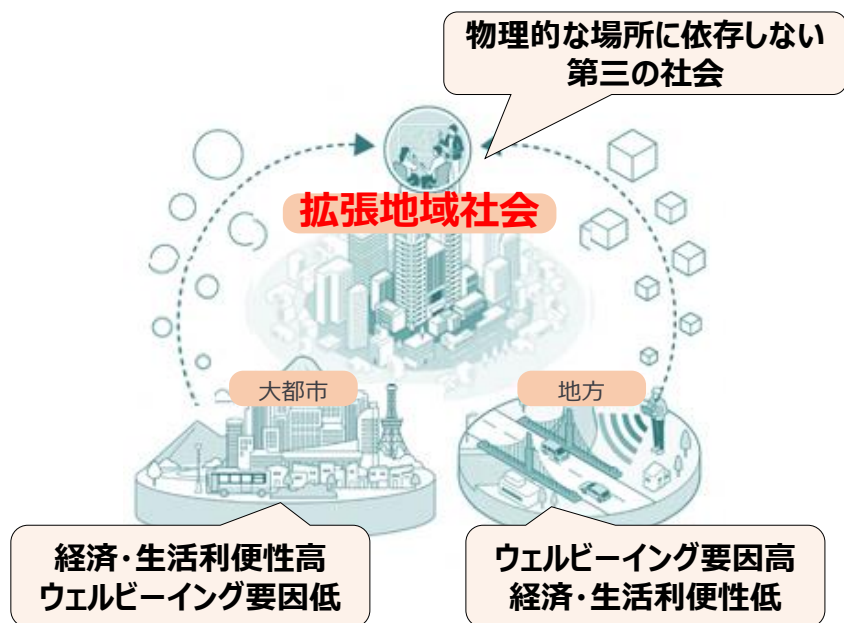
## 社会と場所は、既に疎結合になっている



# 「大都市のウェルビーイング」と「地域産業振興」

- ◆ウェルビーイングというと個人のケア・癒しをイメージするが、本来は「自然とのつながり」「社会貢献」「挑戦」が重要。
- ◆遠隔五感技術・疑似体験技術を活用し、大都市と地方を、対立する関係から相互補完関係にするイメージ。  
※大都市は海外都市も含む。

## 大都市と地方のリ・デザイン



## NTT研究所 ウェルビーイングの要因



出典 : [https://www.rd.ntt/sil/project/socialwellbeing/article/well-being\\_competency\\_wp.html](https://www.rd.ntt/sil/project/socialwellbeing/article/well-being_competency_wp.html)

## 例：没入空間技術(ソリッドレイ研究所 大阪工業大学事例)

① 森林や海辺にワープ



② 遠くの人とお気に入りの場所で



## 例：テレプレゼンス技術



## 例：自律アバター技術



# 参考：拡張地域社会における技術活用イメージ例

- ◆ 大都市のオフィスに集中していたデスクワークの多くは、AIエージェントが支援・代替できる時代が訪れつつある。
- ◆ 人は場所に縛られず、交流・体験・地域との関わりを深めながら、ウェルビーイングと経済の両立活動を探索する

大都市・海外の空間を地域の自然空間へ拡張  
空間内で特産品を購入・飲食



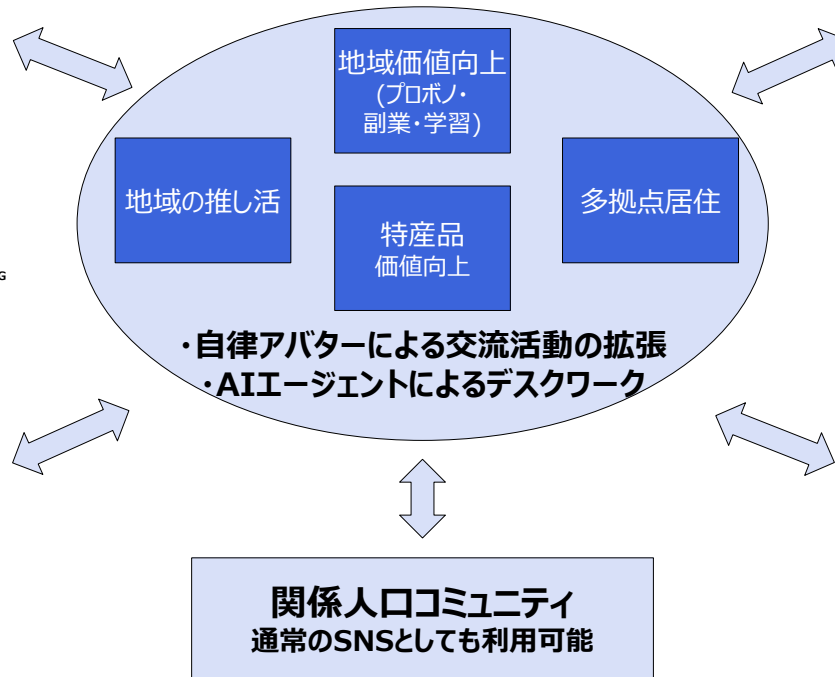
画像出典：uralaa <https://share.google/images/zycfmCeJDZQRrVw1G>

大都市・海外から地域の語り部AIと対話  
歴史から文化・魅力を深く理解



画像出典：NTT IOWN時代のメタバース

## 共創活動



多拠点居住・起業・兼業・半農半X  
大都市と地方を行き来するライフスタイル



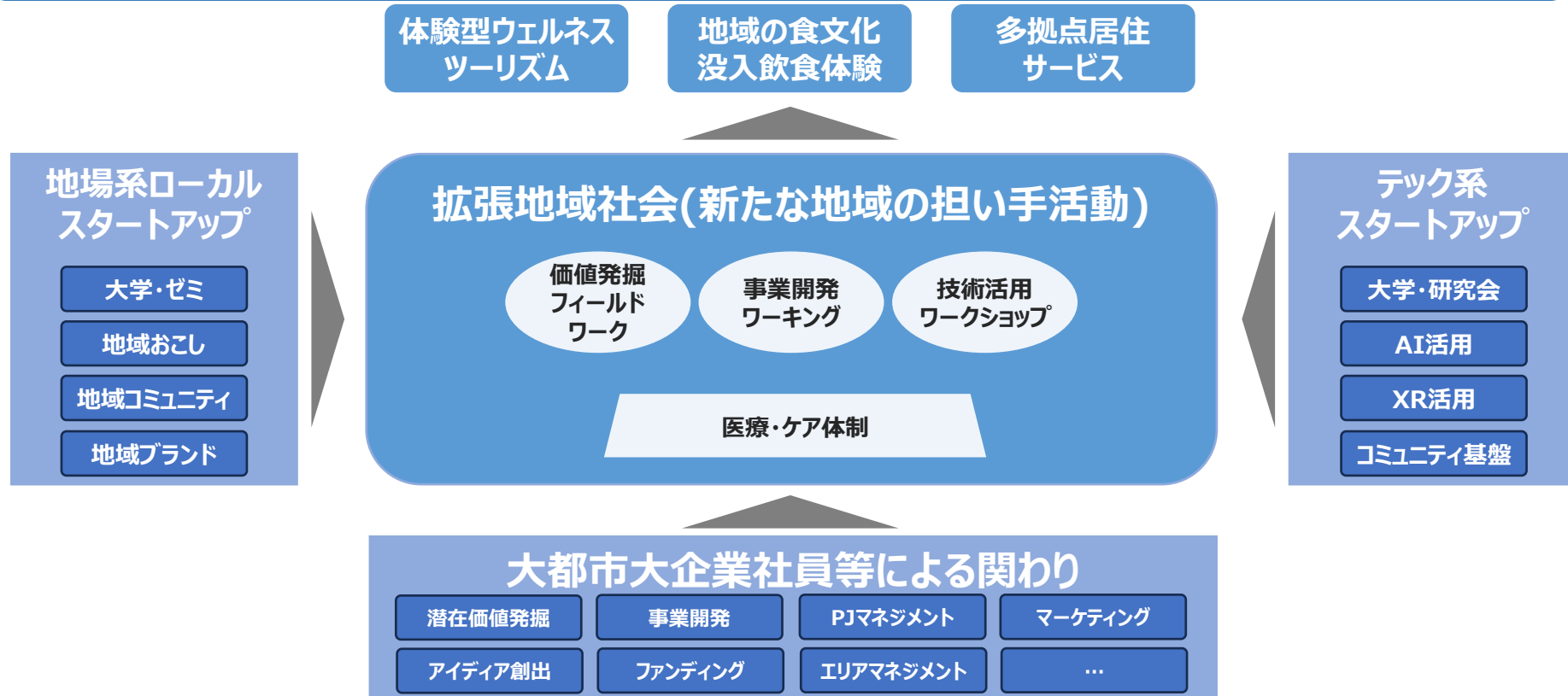
遠隔共創・地域を超えた起業  
場所を超えたイノベーションの創出



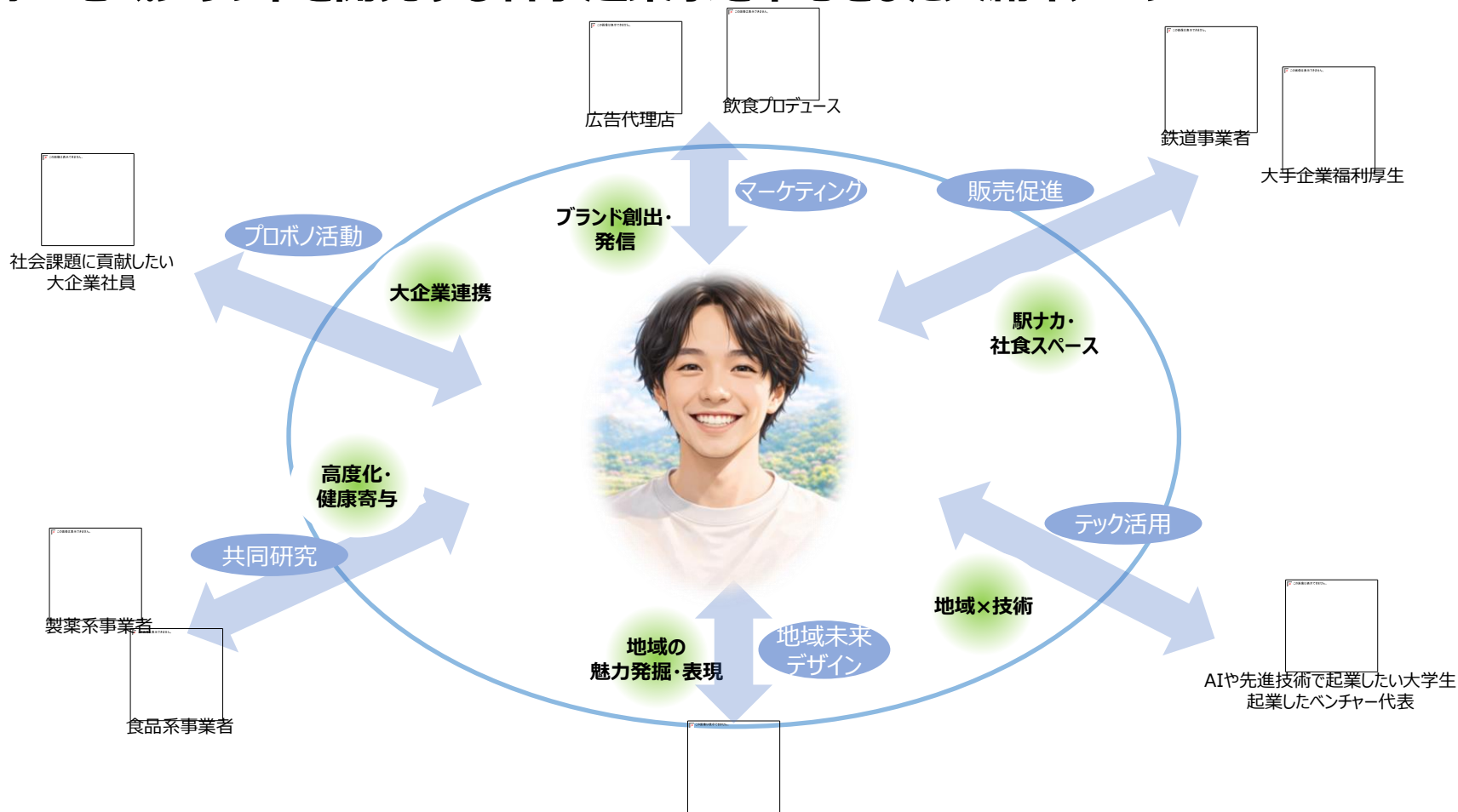
出典：MUSVI テレプレゼンスシステム「窓」  
<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000004.000097219.html>

# 地域住民と大都市関係人口（新たな地域の担い手）による共創活動の創出

- ◆ 大都市に偏在する人材・スキルを活用し、地域の継続的な発展を支える関係人口コミュニティを形成していく。
- ◆ 地域の当事者が目指す方向性と関係人口の関わり方をすり合わせ、世界に発信できる価値を生み出す。



# 例：地域ブランドを開発する若手起業家を中心とした共創イメージ



# 2026年度から 浪江駅西側地区共創会議 支援機関

- ◆ 浪江駅西側地区共創会議、公民連携まちづくり事業等のコンセプトは、拡張地域社会と重なる部分大きい。
- ◆ 帰還者・震災後移住者・町外避難者・研究者・浪江町ファンが分け隔てなく関われる場へ。

## IV. 浪江駅西側地区共創会議

### 1. 共創会議の概要

- 浪江駅西側地区のまちづくりに関与、貢献したい意思があれば誰でも参加でき、随時入退会可能な気軽な玄関口となる「浪江駅西側地区共創会議」を設置。
- 町内外の多様な個人・事業者・団体が互いに知り合える場を提供。同志が集い、共創することで、より実現性の高いまちづくり提案に繋がることを期待。
- 町は、本会を通じて、当地区や復興事業の状況等の最新の情報発信するとともに、浪江駅西側地区の公募条件や基盤整備設計等に関して会員から意見を聴取して反映。



29

引用：2026/2/18浪江駅西側地区共創会議全体説明資料より

## 将来イメージ：都市-地方の境界のない社会へ



時間/場所の制約を低減する  
デジタル技術活用方法検討・技術者マッチング等  
・AI、アバター、XR等の活用による各取り組みの場・コミュニ  
ティ・事業実行自体の効率化といった仕掛けづくり

大都市でのイベント等企画推進  
・地域ブランドを大都市・海外に  
流通するスキーム検討  
・飲食イベント等の開催による新接点創出

画像引用：<https://tonari.no/ja/>

**ご清聴ありがとうございました**